

防災計画に資する活断層情報の解析・評価、集約・情報提供対策【経済産業省】

施策概要

過去の地震の要因である活断層の履歴やその活動性を解析・評価し、その結果のデータベース化、情報提供を実施

効果

活断層の調査データや位置情報を生かし、災害に強い都市計画や防災計画の策定に寄与

全国的な対策と効果

全国の活断層の調査データの集約・位置情報整備地点の増加を推進



R6までに調査データ取得が完了した活断層と活断層データベースの位置情報整備地点

整備地域	調査データ取得が完了した活断層数	位置情報整備地点数
北海道地方	1	50地点
東北地方	2	415地点
関東地方	0	361地点
中部地方	5	266地点
近畿地方	0	329地点
中国地方	5	14地点
四国地方	1	-
九州・沖縄地方	5	-

活断層データベースにおける活断層詳細位置情報の整備



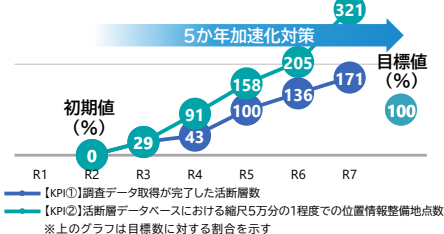
- ▶ 活断層の詳細位置情報を整備することで、学校や病院、その他重要施設と活断層との位置関係を明確にする。
- ▶ 活断層線の表記はJIS A 0204に準拠しており、地質関連業務における効率、品質、信頼性、利便性の向上へ寄与。

予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
-	-	-
R6	R7	累計
-	-	-

※ 加速化・深化分は措置されていないが、国立研究開発法人産業技術総合研究所運営費交付金により対策を実施

目標達成の見通し



整備事例

熊本平野に分布する活断層を調査し、地震被害想定や各種対策につなげる



国立研究開発法人
産業技術総合研究所



熊本県熊本市及び
その周辺地域



熊本市及びその周辺地域での
反射法地震探査・ボーリング調査

調査風景



上:水前寺断層を対象とした反射法地震探査風景
左:立田山断層を対象として熊本城公園で実施したボーリング調査風景

事業費

3.1億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)-億円)

事業の背景(地域の課題)

熊本市内を横切るように分布する水前寺断層および立田山断層については、その分布範囲や活動性に不明な点が多く残されていました。熊本市とその周辺地域における地震災害リスクを評価する上で、これらの断層の正確な分布や活動性を明らかにすることが重要でした。

事業の内容

2016年熊本地震の際には、これまで知られていなかった水前寺断層が地表に出現しました。これが地下の活断層によるものかを確かめるため、反射法地震探査を行いました。また、熊本城公園の北部にみられる直線状の崖は、この付近を通過する立田山断層がずれたことよってできた可能性が指摘されています。これが断層活動のずれを示すものかを確認するため、ボーリング調査を行いました。

※反射法地震探査:地面から人工的に発生させた地震波が地下の地層境界で反射して戻ってくる現象を利用して、地層の広がりや断層の位置などを把握するための調査手法。
※ボーリング調査:地盤に細い孔をあけて円柱状の地質試料を採取し、地層の分布や状態などを把握するための調査手法。

見込まれる効果

調査結果は、政令指定都市(熊本市街地)直下に分布する活断層の長期評価に繋がり、今後熊本市の地震被害想定に活用される予定です。被害想定に実効性を持たせるためには、市民や企業への情報発信、防災知識の普及、活断層情報の利活用の拡大を促進し、災害時の支援体制の整備にまでつなげることが必要です。そのために、同市および周辺自治体と産業技術総合研究所の間で連携を深めていく予定です。

(1)	人命・財産の被害最小化	1	激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策
(2)	交通・ライフラインの維持	2	インフラの老朽化対策
(1)	施策のデジタル化	3	国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進
(2)	災害関連情報の高度化		